

むつ小川原だより



今号では、松原弘行 様からの寄稿をお届けいたします

松原様にはロンドン駐在前にむつ小川原開発地区をご視察いただきました。

再エネに対して、固定概念にとらわれない斬新かつ大胆な発想を述べていただきました。

contribution



松原 弘行さま

Hiroyuki Matsubara

元 丸紅経済研究所
2018～2023 年ロンドン駐在

“ 天は我々を見直した！ ”

トンネルをフランス側に抜けたユーロスターが少し走ると、車窓から風力発電の「木立ち」が目飛び込んできた。

昔からあるせいか、最近のニュースなどで目にする風力発電よりはちょっと小ぶりだ。密集して立っているのはそのせいか、と思って眺めていたら、子どもの頃に緑日で見かけたかざぐるまも手頃なサイズのものが棚にずらりとささっていて、美しくシンクロしていたのを思い出した。大きさはあのサイズじゃなくてはいけない、あれより大きいときれいに並べられなかったんだよ、と錆びついた脳みそが語りかけてきた。

青森県に最初に足を踏み入れたのは高校3年夏の修学旅行の時だった。中高一貫6年間の男子校生活の最後に回った奥入瀬や十和田湖の水辺の涼しげな景色、昭和天皇もお泊まりになられた酸ヶ湯の旅館など、今でも目に焼き付いている。高校同期のFacebook ページのプロフィール写真には、4名のバスガイドさんと一緒に撮った記念写真が使われている。

日本ではなかなか間近で見ることの叶わない風力発電設備をぜひ見ておきたい。そんな想いで、英国駐在への渡航直前に青森県に駆け込んだのが2018年の冬。貴重な機会なので、



松原様撮影

若い部下ふたりと環境省の知人も一緒である。当日は大雪で、トンネルを抜けたら雪国だった。

SMO の車で風力発電群の足下まで送っていただいたが、いざ足を踏み出すと新雪の中にズボ。八甲田山の雪中行軍もこんなものだったのだろうか。天を見上げると、頭上で大きなブレードが勢いよく回っていた。再エネは高いとか、「不安定」なので予備電源が必要だとか、風力発電は騒音の大きい迷惑施設だとか、送電線が足りないとか、できない理由を並べることしかできない我々をなぐさめてくれたようだった。



松原様撮影

霧のロンドンで私が太陽光とおいしい食事に渴望して過ごしていた間に、わが国はカーボンニュートラル実現に大きく足を踏み出した。天を見上げれば頭上から「やっと気づいたんだね」と我々を見直す優しい呼び掛けが、リズムカルなブレードの風切り音と共に聞こえてきそう。

しかし、2030 年度において温室効果ガス 46% 削減（2013 年度比）を目指すというのは、かなり野心的な目標だ。具体的には、環境アセスメントをゼロからやっていたら、再エネの稼働はもうなかなか間に合わないだろう。いわんや浮体式の洋上風力発電を日本列島の周囲に並べるための技術開発の時間的猶予は無い。

でも、再エネは難しいというのが先入観に過ぎないように、日本の陸地には風力の適地が無い、というのも都市伝説のような気がする。例えば、全国の灯台のてっぺんにチューリップの若いつばみのような羽をつけまくったらどうだろう。航路を照らし出す灯台は、その外見もシー・キャンドル（ロウソク）となる。タービンは水平に設置しなくてはならない、ブレードの回転面は地面に垂直で、風の吹いて来る方向に常に正対しなくてはならない、ブレードは大きければ大きいほどいい、そんな常識を忘れてみたい。灯台自体が電力を消費するのだから、地産地消にもなるし、万が一グリッドからの電力供給が途絶えても船の

安全航行を守れる効果もあるのではないだろうか。さらに、そうした垂直な軸で回転する小さなブレードの風力発電機を、携帯電話の基地局のアンテナの上にも信号機の上にも付けてしまおう。都会の至るところに風力発電所ができて、停電にも強い携帯基地局や信号機が誕生する。今こそ天を味方につけよう。

実は、私には永年の夢がある。東京湾アクアラインの橋の欄干を利用して、風力発電機をずらりと並べて欲しいと思っている。東京湾の海上なら風況もそれなりに期待できるはずだ。もし夜間に電力が余ったら、上空で回るブレードを橋の欄干からライトアップしてもらいたい。カクテル光線に照らされて並ぶ風力発電の並木道の中を走り抜けるスポーツカー。頭上すれすれを飛び交う航空機。松任谷由実「中央フリーウェイ」の世界がそ

こにはある。21世紀版のかざぐるまたちが、私たちの目を楽しませてくれることだろう。

PROFILE

松原 弘行

1986年東京大学理学部生物化学科卒業（分子遺伝学）

丸紅（株）にて管理系業務や営業系業務等を幅広く担当。

MBA 留学（米カリフォルニア州 UCLA）、米国会社パイオ・新素材部長（シリコンバレー支店）、ビジネスインキュベーション部パイオチーム長、環境省出向（2010～2012年）等を経て、2012年から経済研究所アナリスト。2018～2023年ロンドン駐在（国際調査チーム長）。

元横浜市立大学医学部客員教授、元神戸大学経済学部客員講師

第2回公募視察会のお知らせ

十倉経団連会長も視察した「むつ小川原開発地区」に行ってみませんか？

2023年10月24日-25日に第2回公募視察会を実施いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

■日程 2023年10月24日（火）～25日（水）

【1日目】10:37 七戸十和田駅の改札集合

午前 風力発電、メガソーラー等、昼食

午後 原子燃料サイクル施設、核融合研究施設、懇親会
宿泊 八戸市内を予定

【2日目】8時頃ホテル出発、八戸駅で解散

■視察内容 エネルギー関連施設の視察を予定しています

- ・再生可能エネルギー施設
- ・原子燃料サイクル施設
- ・核融合研究開発の状況

■移動 以下の推奨便をご参照の上、各自ご手配ください

往路 はやぶさ5号 東京7:32→七戸十和田10:37

復路 はやぶさ14号 八戸9:05→東京12:08

※ダイヤ変更により、到着が5分程度早まる可能性があります

■参加費用

交通費・宿泊費は、参加者各位にご負担いただきます

東京からご参加の場合4万円程度です

新幹線往復 約32,000円、宿泊費 約9,000円

昼食、懇親会費用は主催者負担

■募集人数 5名程度

■お申込

ご視察後に800字程度で感想をお寄せいただける方は
メルマガジン添付の申込書にてお申込ください

※頂戴したご感想は、弊社メルマガ・HPに掲載いたします

■締切 8月10日（木）

応募者多数の場合は、先着順とさせていただきます
定員に満たない場合は、二次募集を行います

